

令和5年度丹波市の教育（実施計画）重点施策（案）

令和4年12月22日時点

1. 「主体的・対話的で深い学び」の充実

- ①指導の個別化と学びの個性化に取り組み、目的に向かって自己調整しながら学習する授業づくり
- ②1人1台端末を活用した確かな学力を保障する個に応じた指導の充実
- ③情報活用能力を教科の学びにいかし、探究の過程で自らの考えを深める取組の推進

2. 豊かな学びを支える環境の整備

- ①地域産材を活用した市内中学校の学習机・椅子の旧 JIS 規格から新 JIS 規格への更新
- ②第2次丹波市立学校適正規模・適正配置方針に基づいた統合協議への働きかけ（複式学級がある学校の地域）
- ③植野記念美術館の大規模改修、丹波竜化石工房の拡充

3. 教育支援体制の充実

- ①教職員に対する研修機能の充実と、いじめや不登校の理解促進に向けた市民向け情報発信の強化
- ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる個別最適な支援及びいじめ・不登校の未然防止
- ③特別支援保育実践コーディネーターの新規配置による認定こども園への巡回支援の充実
- ④特別支援学校の副次的な学籍導入に伴う特別支援学校・居住地校との交流

4. 学校の働き方改革の推進

- ①スクール・サポート・スタッフの全校配置
- ②学校の組織構成の多様化に伴う地域とともにある持続可能な仕組みづくりの推進
- ③部活動検討委員会による休日部活動の地域移行の推進

5. コミュニティ・スクールの深化・充実

- ①「丹波市CSフォーラム・連絡会」による各校実践の深化・充実
- ②地域学校協働活動推進員のコーディネートによる地域の将来を担う人材の育成、地域住民のつながりを深める「学校を核とした地域づくり」の推進
- ③市民が主体的に学んだ学習の成果を「学校を核とした地域づくり」や「地域学校協働活動」にいかす

6. 地域資源の活用とふるさと意識の醸成

- ①丹波市ならではのフィールドとなる「丹波竜化石工房」や「氷上回廊水分れフィールドミュージアム」などでの体験学習をとおした地域に誇りを持つことができる子どもの育成
- ②学校給食における丹波市の特産物や有機農産物、郷土料理をとおした環境意識の向上と、生産者への感謝の心の育成、及び食品ロスの削減
- ③市内高等学校との連携による学習教材「STGs ゲーム」の作成および活用（持続可能な開発目標〔SDGs〕への当事者意識の育成）
- ④市内の県立高等学校の魅力づくり、特色づくりによる人材育成、高等学校の活性化、地域活力の向上